

「赤旗法」から「信号無視」へ

100年前の車の歴史から、人の限界を超える技術との共生の向かう先を考える

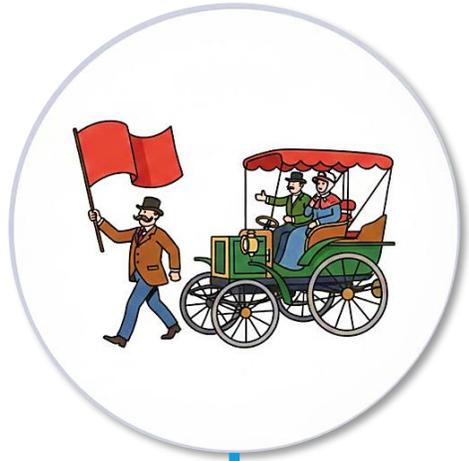
2026年2月3日（火）株式会社電通総研 仲津

赤旗法から「信号無視」ナラティブ発明まで：自身の限界を超える技術との共生の歩み

150年前、人は自身の物理的限界を超える「自動車」を手に入れた。車との共生の歩みを振り返ると
今、自身の知的限界を超える「AI」を手に入れつつある人間社会のむかう方向性が見えてくるのではないか

英国：赤旗法 1865～ ➤ 米国：NY交通塔 1920～ ➤ 欧米：信号色標準化1918～ ➤ 米国：自動信号化1920～

蒸気自動車の速度を
人間の歩行速度に制限



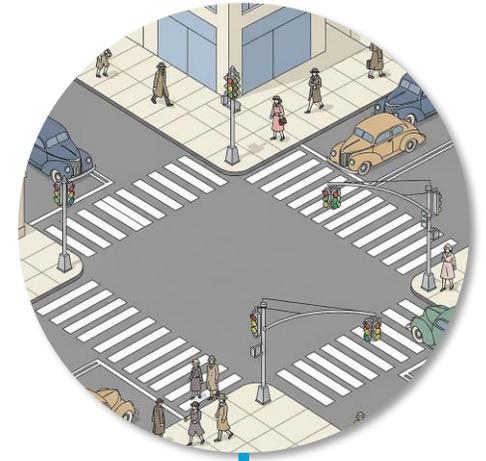
警察官（最盛期6千名）が
塔上から手動で信号で交通整理



都市間・国間移動対策に
信号色統一。信号順守を規範化



統一ルール下の事故を強制保険
制度により社会全体で吸収



AI文脈では・・・

Human in the Loop
新技术を既存秩序に縛りつけ
全プロセスを人間が監視して
リスク制御

Management by Exception
人間の役割を現場作業から例外
管理等のみの全体監視役に昇格

AI Orchestration & Jay-Prompting
人間側を規格化：バイブ
コーディングから再移行？

AIリスク予見的抽象化？
損害発生時はAIリスク保険で
カバーする社会制度へ移行？

赤旗法

19世紀後半に登場した自動車は（路面）鉄道業界を脅かした。馬車の速度が当たり前だった人々の秩序感にとって奇異に映った。英国は1865年「赤旗法」を施行。自動車の速度を時速4マイルに制限。赤旗をもった人物の先導を義務づけた。



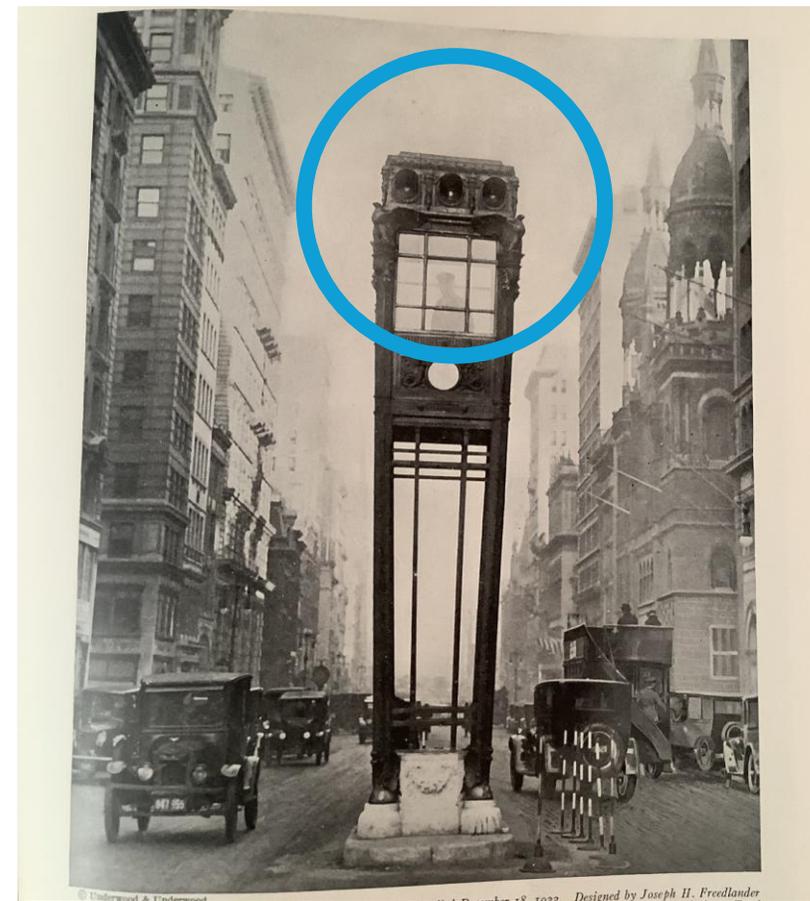
260203_7th Grand Canvas:AI品質の未来を共に描く 交通塔

20世紀初頭ニューヨーク。道路には人、馬車、路面電車、自動車が入り乱れ、短距離移動でも数十分かった。客足が遠のくのを恐れた5番街の高級店は1920年代、交通塔を導入。交通規制官が、交通量をみて赤緑黄信号を入替。渋滞は緩和した。

ニューヨーク5番街、1917年



ニューヨーク5番街、1920年代



共通プロトコルの確立：信号の色の標準化と新しい社会規範の発明

増える交通量を前に、規制官が個別に判断する交通塔方式はすぐに限界に。各地で自動タイマー式信号機へと切替。越境移動に備えて信号色は国際的に標準化。業界ロビー活動を通じ「信号無視＝マナー違反」とする規範形成・内面化へ

1920年代前半 デトロイト 最初のタイマー&電気式自動信号機



1937年

アメリカWPA連邦芸術PJで制作されたDJWポスター

